

令和4年度ネットリサーチ「性の多様性」に関する調査結果報告書

■結果のポイント

- 性的マイノリティに係る言葉の認知状況では、『言葉も意味も知っている』言葉として、「ゲイ」が84.9%、「レズビアン」が84.6%と高くなっている。一方で、『知らなかった』言葉では、「SOGI」が77.2%と高くなっている。
- 周りに性的マイノリティの方がいるかについて、「はい」が22.6%、「いいえ」が62.8%となっている。また、その関係性は、「友人」が60.2%と最も多く、「職場の同僚、同じ学校の人」が37.2%と続く。
- 「いばらきパートナーシップ宣誓制度」の認知状況は、「言葉も内容も知っている」(13.3%)と「言葉は知っていたが、意味は知らない」(17.3%)を合わせた【知っている】は30.6%となっている。

■調査結果の概要

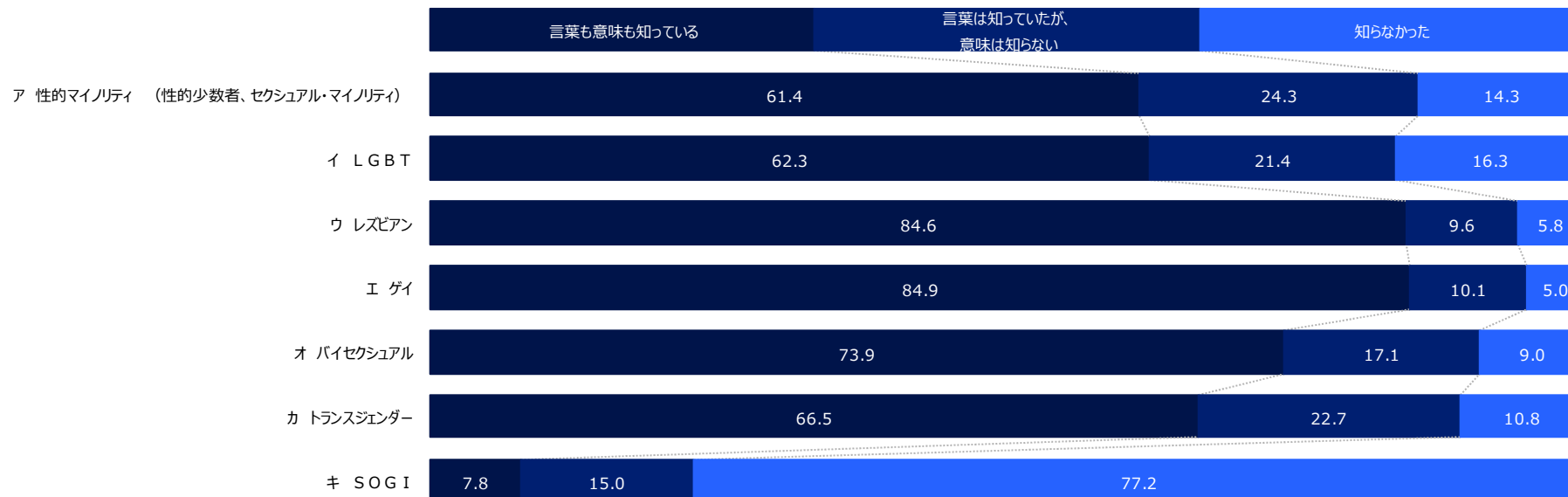
1 性的マイノリティに係る言葉の認知状況

◇ 『言葉も意味も知っている』言葉では、「ゲイ」が84.9%、「レズビアン」が84.6%と高くなっている。

◇ 一方で、『知らなかった』言葉では、「SOGI」が77.2%と高くなっている。

Q1.あなたは、次のア～キの言葉と意味について知っていますか。

SA



	%	言葉も意味も知っている	言葉は知っていたが、意味は知らない	知らなかった
ア 性的マイノリティ（性的少数者、セクシュアル・マイノリティ）	100.0	61.4	24.3	14.3
イ L G B T	100.0	62.3	21.4	16.3
ウ レズビアン	100.0	84.6	9.6	5.8
エ ゲイ	100.0	84.9	10.1	5.0
オ バイセクシュアル	100.0	73.9	17.1	9.0
カ トランスジェンダー	100.0	66.5	22.7	10.8
キ S O G I	100.0	7.8	15.0	77.2

※性的マイノリティとは、同性に恋愛感情を持つ人や、生まれ持った性（出生時の性）と心で感じている性（自認の性）が一致しない人などのことを言います。

※L G B Tとは、L（レズビアン：女性の同性愛者）、G（ゲイ：男性の同性愛者）、B（バイセクシュアル：両性愛者）、T（トランスジェンダー：身体と心の性別に違和感のある人など）の頭文字を合わせた言葉で、性的マイノリティをあらわす総称の一つです。

※S O G Iとは、「性的指向」（Sexual Orientation、恋愛感情や性的な関心がどの性別に向いているか）と「性自認」（Gender Identity、「私は男（女）である」等の、自分がどの性別であるかについての内面的・個人的な認識）の頭文字を合わせた言葉です。

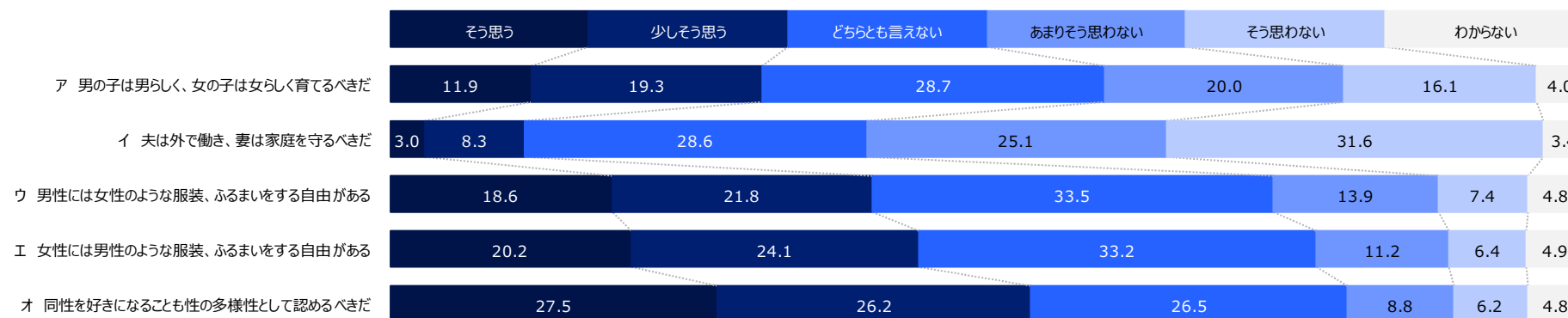
2 性別に関わる意識

◇ 選択肢『イ』について、「あまりそう思わない」（25.1%）と「そう思わない」（31.6%）を合わせた【そう思わない】が56.7%となっている。

◇ 選択肢『オ』について、「そう思う」（27.5%）と「少しそう思う」（26.2%）を合わせた【そう思う】が53.7%となっている。

Q2.次のア～オについて、あなたのお考えやお気持ちにもっとも近いものはどれですか。ア～オそれぞれの項目についてあてはまるものを選んでください。

SA



	%	そう思う	少しそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	【そう思う】	【そう思わない】
ア 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ	100.0	11.9	19.3	28.7	20.0	16.1	4.0	31.2	36.1
イ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	100.0	3.0	8.3	28.6	25.1	31.6	3.4	11.3	56.7
ウ 男性には女性のような服装、ふるまいをする自由がある	100.0	18.6	21.8	33.5	13.9	7.4	4.8	40.4	21.3
エ 女性には男性のような服装、ふるまいをする自由がある	100.0	20.2	24.1	33.2	11.2	6.4	4.9	44.3	17.6
オ 同性を好きになることも性の多様性として認めるべきだ	100.0	27.5	26.2	26.5	8.8	6.2	4.8	53.7	15.0

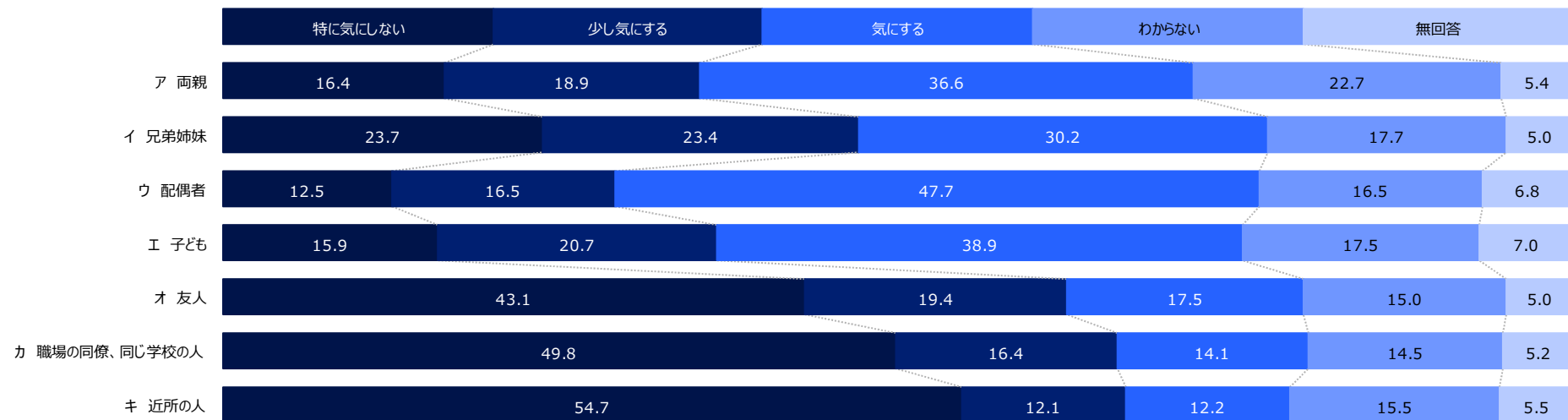
3 身近な人が性的マイノリティだった場合の感じ方

◇ 『気にする』では、「配偶者」が47.7%、「子ども」が38.9%、「両親」が36.6%と高くなっている。

◇ 『特に気にしない』では、「職場の同僚、同じ学校の人」が49.8%、「近所の人」が54.7%と高くなっている。

Q3.次のア～キの方が性的マイノリティだったとした場合、あなたはどう思いますか。ア～キそれぞれの項目についてあてはまるものを選んでください。

SA



	%	特に気にしない	少し気にする	気にする	わからない	無回答
ア 両親	100.0	16.4	18.9	36.6	22.7	5.4
イ 兄弟姉妹	100.0	23.7	23.4	30.2	17.7	5.0
ウ 配偶者	100.0	12.5	16.5	47.7	16.5	6.8
エ 子ども	100.0	15.9	20.7	38.9	17.5	7.0
オ 友人	100.0	43.1	19.4	17.5	15.0	5.0
カ 職場の同僚、同じ学校の人	100.0	49.8	16.4	14.1	14.5	5.2
キ 近所の人	100.0	54.7	12.1	12.2	15.5	5.5

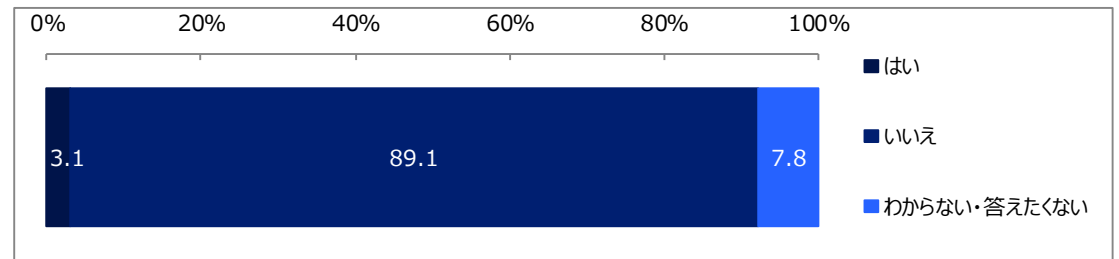
4 性的マイノリティの当事者

☆ 性的マイノリティの当事者かどうかについて、「はい」が3.1%となっている。

Q4.あなたご自身は、性的マイノリティの当事者ですか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

SA

	%	n
全体	100.0	1000
はい	3.1	31
いいえ	89.1	891
わからない・答えたくない	7.8	78



5 性的マイノリティであることの公表

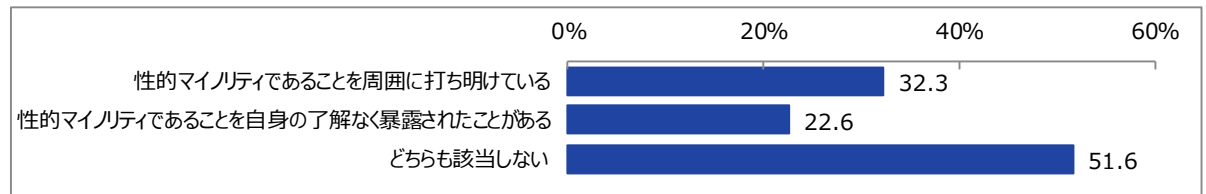
☆ 「性的マイノリティであることを周囲に打ち明けている」は、31人中10人（32.3%）となっている。

(Q4で「はい」と回答された方へ)

Q5.あてはまるものを全て選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	31
性的マイノリティであることを周囲に打ち明けている	32.3	10
性的マイノリティであることを自身の了解なく暴露されたことがある	22.6	7
どちらも該当しない	51.6	16



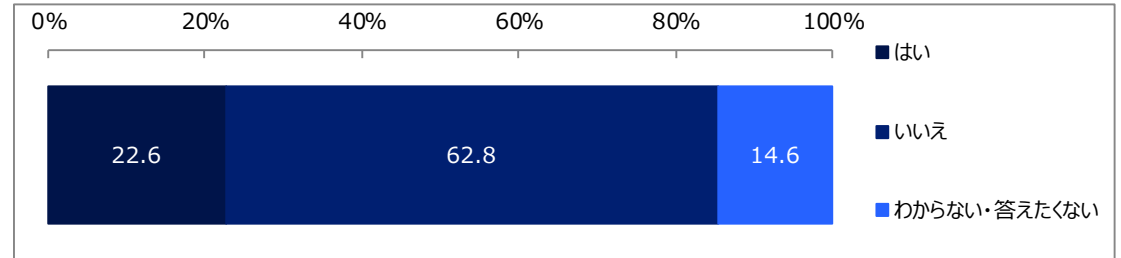
6 周りに性的マイノリティの方がいるか

◇ 周りに性的マイノリティの方がいるかについて、「はい」が22.6%、「いいえ」が62.8%となっている。

Q6.今まで、あなたの知り合いで、性的マイノリティの方はいましたか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

SA

	%	n
全体	100.0	1000
はい	22.6	226
いいえ	62.8	628
わからない・答えたくない	14.6	146



7 性的マイノリティの方との関係性

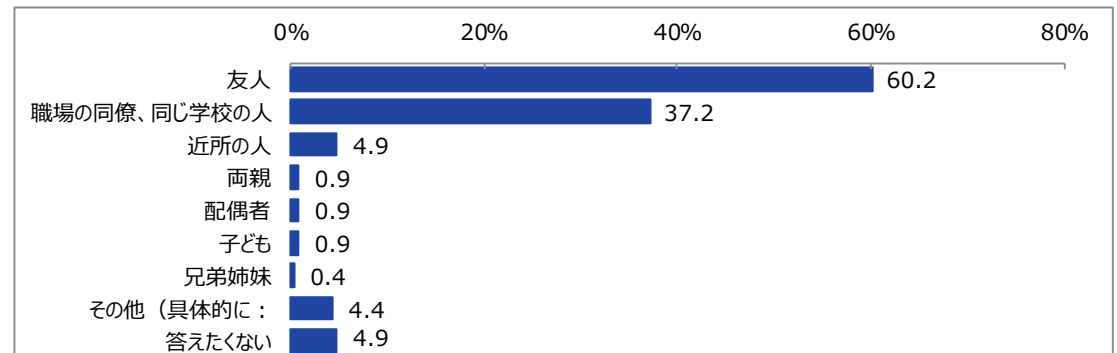
◇ 「友人」が60.2%で最も高く、「職場の同僚、同じ学校の人」が37.2%と続く。

(Q6で「はい」と回答された方へ)

Q7.それは、あなたにとってどのような関係の方ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	226
友人	60.2	136
職場の同僚、同じ学校の人	37.2	84
近所の人	4.9	11
両親	0.9	2
配偶者	0.9	2
子ども	0.9	2
兄弟姉妹	0.4	1
その他（具体的に：	4.4	10
答えたくない	4.9	11



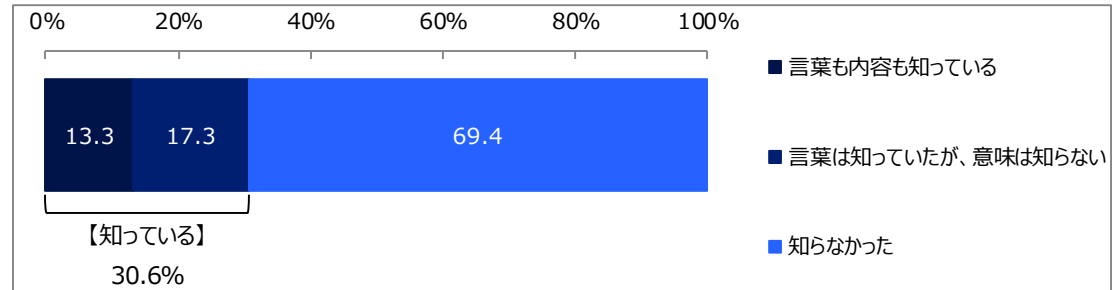
8 「いばらきパートナーシップ宣誓制度」の認知度

- ◇ 「言葉も内容も知っている」(13.3%)と「言葉は知っていたが、意味は知らない」(17.3%)を合わせた【知っている】は30.6%となっている。
- ◇ 一方で、「知らなかった」は69.4%となっている。

Q8.あなたは、「いばらきパートナーシップ宣誓制度」を知っていますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

SA

	%	n
全体	100.0	1000
言葉も内容も知っている	13.3	133
言葉は知っていたが、意味は知らない	17.3	173
知らなかった	69.4	694



(※) パートナーシップ制度とは、性的マイノリティのカップルが互いに人生のパートナーであると宣誓したことを自治体が証する制度です。

詳しくは茨城県ホームページをご覧ください。

茨城県 HP : <https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/fukushi/jinken/ibarakipartner.html>

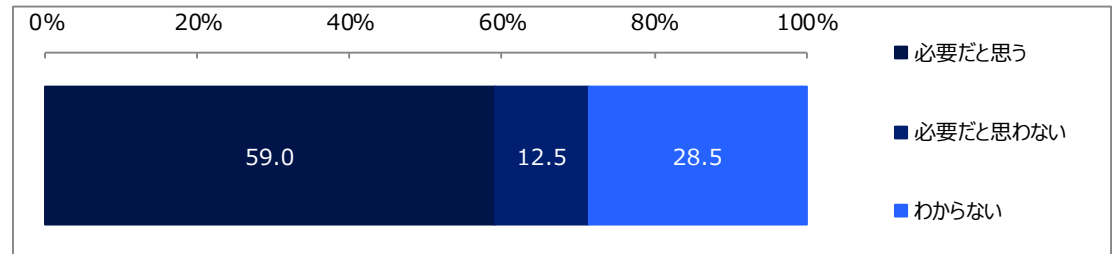
9 子どもに対する性的マイノリティ教育の必要性

- ◇ 「必要だと思う」が59.0%、「必要だと思わない」が12.5%となっている。

Q9.あなたは、子どもの頃から性的マイノリティに関する教育が必要だと思いますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

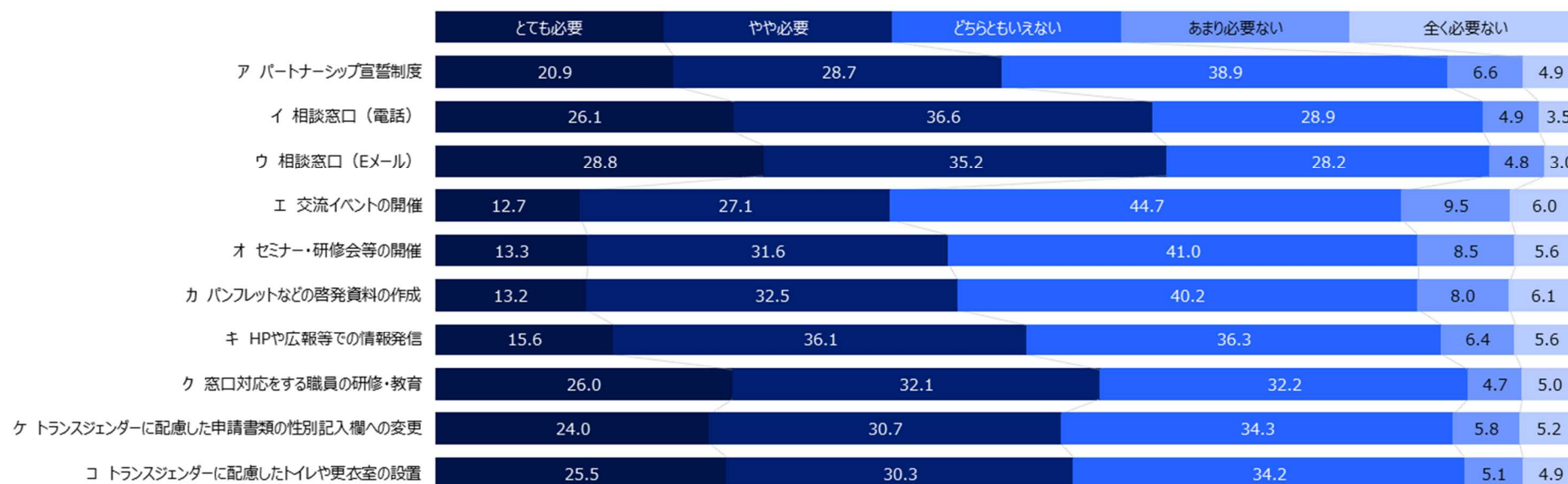
SA

	%	n
全体	100.0	1000
必要だと思う	59.0	590
必要だと思わない	12.5	125
わからない	28.5	285



10 LGBT等・性的マイノリティに対しての取組み・施策の必要性

◇ 『とても必要』では、「相談窓口（Eメール）」が28.8%、「相談窓口（電話）」が26.1%、「窓口対応をする職員の研修・教育」が26.0%と高くなっている。



	%	とても必要	やや必要	どちらともいえない	あまり必要ない	全く必要ない
ア パートナーシップ宣誓制度	100.0	20.9	28.7	38.9	6.6	4.9
イ 相談窓口（電話）	100.0	26.1	36.6	28.9	4.9	3.5
ウ 相談窓口（Eメール）	100.0	28.8	35.2	28.2	4.8	3.0
エ 交流イベントの開催	100.0	12.7	27.1	44.7	9.5	6.0
オ セミナー・研修会等の開催	100.0	13.3	31.6	41.0	8.5	5.6
カパンフレットなどの啓発資料の作成	100.0	13.2	32.5	40.2	8.0	6.1
キ HPや広報等での情報発信	100.0	15.6	36.1	36.3	6.4	5.6
ク 窓口対応をする職員の研修・教育	100.0	26.0	32.1	32.2	4.7	5.0
ケ トランスジェンダーに配慮した申請書類の性別記入欄への変更	100.0	24.0	30.7	34.3	5.8	5.2
コ トランスジェンダーに配慮したトイレや更衣室の設置	100.0	25.5	30.3	34.2	5.1	4.9

■調査の目的

県民の「人権」に対する意識や人権問題への認識の推移を把握し、人権施策の成果を確認するほか、人権問題に関する課題・ニーズを明らかにし、より効果的な啓発手段等を考察する。

県総合計画Ⅲ「新しい人財育成」における政策15「自分らしく輝ける社会」の施策1「多様性を認め合い、一人ひとりが尊重される社会づくり」の中で、ダイバーシティ社会の構築のための啓発の推進に取り組むこととしている。

■実施概要

・実施期間：令和4年8月26日～9月2日

・サンプル数：茨城県常住人口調査（令和4年4月1日現在）に基づく性別・年代・居住地（5地域）の割合で割り付けた18歳以上の県民1,000サンプル
回答者数（人）

		県北	県央	鹿行	県南	県西	計
全体		115	247	95	352	191	1,000
性別	男性	60	126	50	180	99	515
	女性	55	121	45	172	92	485
年代別	18～29歳	18	41	16	66	32	173
	30歳代	17	44	17	62	32	172
	40歳代	23	57	21	81	43	225
	50歳代	27	55	20	75	41	218
	60歳代	30	50	21	68	43	212

県北：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、久慈郡

県央：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、東茨城郡、那珂郡

鹿行：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市

県南：土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡

県西：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(注)

1. 「ネットリサーチ」の回答者は、民間調査会社のインターネットリサーチモニターであり、無作為抽出された調査対象者ではない。
2. 割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
3. 図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。